

# 観天 望気

## 農業を支え続ける

今、世界中の農業の現場では、都市への人口集中や若年層の農業離れによる人手不足が加速しています。そして、その最前線にあるのが日本です。基幹的農業従事者が減少し、担い手農家への集約が加速度的に進むなか、限られた人手で農業を維持するためには省力化・効率化は不可欠であり、ロボットやICT(情報通信技術)を活用したスマート農業をより一層推進することが求められています。

クボタグループは創業者・久保田権四郎の「社会に貢献する」という強い志を継承し、農業分野では石油発動機に始まり、耕運機、トラクタを開発し、農業の機械化に携わってきました。近年では、自動運転農業機「アグリロボシリーズ」を開発し、トラクタ、田植機に続き、2024年には業界で初めて有人監視下での無人運転が可能なコンバイン「DRHI200A-A」を発売しました。

機械だけでなく、生産性を向上させるソリューションの提供にも注力しています。営農支援システム「K S A S」は、機械連携による圃場ごとのコメの食味・収穫量の記録や衛星・ドローンを用いたリモートセンシングによる生育状況の把握を通じて、データに基づく収穫量の向上や品質の安定化、高付加価値な農作物生産など、農業経営を支援する機能を順次拡充しています。

さらに、あらゆる分野で広がるAIの活用は、農業の分野でもさまざまな技術革新をもたらしており、当社も製品・サービスへの導入を進めています。例えば、先に紹介した無人コンバインでは画像認識技術を用いることで、作物が実った圃場内での自動運転を実現しました。また、K S A Sでは生成AIを活用し、農作物の育て方など、営農に関する簡単な質問ができる機能を実装しました。

人々が生きていくうえで、豊かで安定的な食料の生産は欠かせません。私たちは農業生産者の皆さまに寄り添いながら、農作物の生産から販路拡大に至るまで、農業が抱える課題に対するソリューションの提供を通じ、持続可能な農業の実現をめざしてまいります。



### 花田 晋吾

株式会社クボタ  
代表取締役社長 CEO

はなだしんご  
1963年生まれ。入社後、農業機械の海外営業などに従事し、トラクタ事業推進部長や汎用事業ユニット長、トラクタ第三事業部長を務める。欧州統括会社および米国統括会社の社長などを歴任し、2025年に代表取締役副社長執行役員・機械事業本部長に就任。26年1月から現職。